



全体会議/分科会報告

みんなで考えたら、こんなにいっぱいアイデアがでた。いっぱい友だちができた。

3日目は、いよいよ全体会議です。それぞれの分科会で出された意見やアイデアをまとめ、発表します。どうやったら、みんなにうまく伝えられるだろう？発表の仕方、みんな工夫をしました。

第1分科会はメンバーのなかで唯一の「素もぐりの達人」が魚をつかまえる楽しさを交えて、「川遊び」の魅力を迫力満点に語ってくれました。

第2分科会は、テーマは「水質」です。「知る」「伝える」「活動する」などキーワードをいくつもあげて、自分たちにできることをわかりやすく伝えました。

第3分科会は「流域」。上流と下流の人たちが交流することやここで学んだことを積極的に伝えていこうと力強く訴えました。

「水利用」がテーマの第4分科会は、「おいしい水が飲みたい」というみんなが持っている思いから一人ひとりができることを「しばちゃんの日」として具体的に追ってみました。「ま、いいか」という考えをすてて、行動しようと提案。

第5分科会は、「川に学ぶ」というテーマを加計町に生息する

天然記念物のモリアオガエルを主人公にした「カエル物語」という紙芝居にしました。ン年後の未来に楽しい夢をつなげました。

第6分科会は劇をしました。「いい川づくり」をテーマに、だれもが知っている「桃太郎」の話をアレンジ、「おじいさんは山へ森林破壊に、おばあさんはいえの大量のごみを川へ捨てにいきました…」。なかなか説得力あるおとぎ話でしたよ。

この後、みんなで「水じゃけん広島宣言」を採択しました。3日間にわたってたくさんの仲間に出会い、一緒に語り合ったことをそれぞれが地域に伝えていくことを誓い合いました。



3日間の講評を発表する
国土交通省河川環境課
河川環境保全調整官
金尾 健司 氏



全体宣言文

2003年3月の32カ国から109人の子どもたちが集まり、水問題を話しあった「世界子ども水フォーラム」をふまえて、日本の子どもたちが水問題を学び、話し合う機会がつけられました。それが、全国各地からたくさんの中学・高校生が広島県、太田川上流の加計町に集まった「世界子ども水フォーラム・フォローアップin広島」です。私たち参加者は、この土地にちなんだ体験をしたり、様々な説明をきいたりし、また「川遊び」、「水質」、「流域」、「水利用」、「川に学ぶ」、「いい川づくり」の6つの分科会に分かれて話し合いをしました。

分科会テーマや住んでいる地域の違いを越えて、私たちが水の問題について共通して大切だと考えたのは次のことです。

- 安全で自然いっぱいの親しみやすい水辺を増やすこと。
- 水辺に親しみ、知識を増やす機会をつくること。
- 環境問題に積極的にとりくむ人と、危機感がない人との差を埋めていくこと。
- 川の上流と下流、田舎と都市部の相互理解を深めていくこと。
- 様々な人と水問題解決のための情報交換をしていくこと。

私たち子どもは次のことを心がけます。

- 水を大切に、川を汚しません。ゴミ拾いもします。
- 環境や水についての理解を深めます。
- 自発的に水の大切さをまわりの人に伝えます。
- 子どもたちのグループやネットワークをつくります。
- 子どもたちの体験や交流活動を広めるために、大人に協力を求めます。



副実行委員長(エコロジー研究会ひろしま事務局長)
瀬川千代子氏に宣言文を手渡す子どもたち

そのために、NGOや行政へ次のことを望みます。

- 都市部でも緑や生き物が多く、子どもが遊べる川を増やすこと。
- コンクリート護岸などの無機質な構造物に緑をよみがえらせること。
- 学校や地域で、親子が共に体験し学ぶ場をつくること。
- 都市と田舎の交流や、環境教育のコーディネーターや後継者を育成すること。
- NGO、行政、企業とのパートナーシップの強化をすること。
- マスメディア、インターネットなどを利用し、積極的に情報発信をすること。
- 全国、世界の子どもが集まるフォーラムを継続して開催すること。



● 統括ファシリテーター
同志社大学大学院
三浦 初美 氏

最後に、私たちは「平和」を強く願います。3月のフォーラムは、アメリカ合衆国によるイラク爆撃と重なりました。そしてこのフォローアップ大会は、原子爆弾が投下された広島での開催です。太田川は被爆者が水を求めた川でもあります。私たちは、平和な世界をつくっていくために、今回、広島で自分が体験したことを、より深く、そして人々に伝えてゆくことを宣言します。

2003年10月13日